

## 支倉常長フェロー報告書

提出日 2009 年 12 月 25 日



申請者	氏名	千葉 秀平
	所属・職	生命科学研究科・助教
出張期間	2009 年 12 月 4 日 ~ 12 月 11 日	
渡航先	米国・カリフォルニア州・サンディエゴ	
渡航目的	学会参加・共同研究のための留学・( )	
発表演題名あるいは共同研究課題名	MST2- and Furry-mediated Activation of NDR1 Kinase Is Critical for Precise Alignment of Mitotic Chromosomes	
得られた成果など	<p>米国カリフォルニア州サンディエゴの San Diego convention center にて開催された 49th American Society For Cell Biology (以下, 米国細胞生物学会)に参加して参りました。米国細胞生物学会は細胞生物学分野における著名な国際学会であり、約 100 のシンポジウムや約 3500 のポスター発表が行われ、基礎生物学から病態や疾患まで細胞生物学研究に関わる研究者が集う、最もレベルの高い学会の一つです。私は”MST2- and Furry-mediated Activation of NDR1 Kinase Is Critical for Precise Alignment of Mitotic Chromosomes”の題目でポスター発表を行わせていただきました。セッション中は酵母から哺乳類まで広範な研究に従事する多数の研究者の方々とディスカッションを行い、多くの知見やアイデアを得ることができました。学会開催中は私の研究テーマに近い細胞骨格構築や細胞分裂の研究領域の第一線で活躍する著名な研究者によるセッションやポスターを直接拝聴し、自身の研究内容の位置づけやこれからの研究に対する明確な指針と目標を打ち出すことができ、大変有益であったと感じております。セッション中、特に印象深かったのは繊毛形成異常に伴う肥満、失明、腎疾患、多指症などの原因遺伝子として近年同定された遺伝子群複合体である BBSome の解析を中心に行っている Stanford 大学の Maxence V. Nachury 博士の研究グループの発表であり、繊毛形成に果たす BBSome の分子機能を詳細に明らかにされていたことに大きな驚きを覚えました。また、Maxence V. Nachury 博士にはご多忙にも関わらず、個人的にお時間を割いていただき、BBSome 複合体の研究の思案のみならず、私自身の研究内容に対するアドバイスもいただきました。この経験は私の今後の研究生活の大きな糧になっていくと確信しております。今回学会に参加させていただき、新たな知見や研究動向を学んだだけではなく、研究に従事するものとして立場や知名度には関係なく、真理を追究するものどうし対等に話が出来るといふサイエンスの醍醐味に改めて気づくことが出来ました。このような貴重な経験をさせていただき、ご支援下さった支倉フェローシップに心より御礼申し上げます。</p>	